

一関青年会議所(JC)60年の軌跡

- 1955 10月、当時の商工会議所青年部から独立。「一関青年会議所」が発足
- 1960 釣山公園へベンチ55脚、くず入れ10個を設置
- 1967 「一関地方の交通公害対策」について、一関地方の各市町村長によるパネルディスカッション開催
- 1968 第1回市民会議「一関小学校跡地の問題をみんなで考える」を開催
- 1969 地協制から岩手宮城ブロック制に移行。70年度ブロック会長が一関JCから選任され、親睦大学(岩手宮城)を主管する
- 1974 ・日本JC京都会議の非常事態宣言を受け、一関JCが省資源運動の先頭に立つ  
・「一関夏まつり」を市民手作りの祭りに戻すため、「子供みこし大会」を実施
- 1976 ・ボーイスカウトを設立  
・夏まつりで「時の太鼓」兄弟揃い打ちを実行
- 1979 ・夏まつりの新企画「フォーク&ロックコンサート」を大成功させる  
・知事、両磐地区9市町村、商工会青年部を迎え、「一関サミット」を開催
- 1980 創立25周年を記念してフィールドアスレチックの建設に着手
- 1982 ・「ラブシティー一関」運動を提唱。「歴史の見直しから21世紀に向けて」のもと、史跡標柱整備、歴史見直し運動が活発に繰り広げられる  
・大槻文彦胸像を市役所本庁前に設置
- 1983 ・「二代目時の太鼓」を製作  
・文化センター前に「建部清庵立像」を建立
- 1984 JR一ノ関駅新幹線開業2周年を記念し、駅前に「大槻三賢人像」を建立
- 1986 「歴史の見直し運動」が、東北地区競技会の社会開発推進最優秀賞を、日本青年会議所の社会開発推進賞最優秀賞を受賞
- 1989 ・芭蕉300年展を開催。「ポケットパーク二夜庵」を建設  
・市内の小学生を対象に「寺子屋」をスタート
- 1992 国際交流フェスティバルIN一関を開催
- 1993 両磐との交流活動「いわいネットワーク事業」が社会開発運動に位置付けられる
- 1995 「WATER FAR LIFE PROJECT'95 命の水」事業に協賛。日本JC会頭から感謝状が贈られる
- 1999 「聞こえますか、大地のつばやき」をテーマに自然保護に関する事業を展開
- 2001 ・農業活性化体験事業で、1,300名ののり巻きづくり世界記録に挑戦  
・行政や商工会議所青年部などとまちの課題と展望などを模索する「Let's Machizukuri」を開催
- 2002 夏まつりの二代目時の太鼓の楽曲「岳」に合わせて創作踊りを開始。03年度に「炎舞」と命名
- 2007 ・高校生座談会を開催  
・青少年育成事業「いわいっ子飛行隊in骨寺」や骨寺荘園遺跡現地調査勉強会を開催
- 2009 地域未来創造「新市長と語る～一関のこれから～」を実施
- 2013 社会開発事業「希望あふれる未来をつくる～リニアコライダーと共に～」を実施
- 2014 青少年育成事業「明日へ向かって走れ! (ichinoseki) L(leader)C(children)！」を開催
- 2015 ・60周年記念講演会「夢をつかめ」を開催  
・1984年に埋設したタイムカプセルの開封  
・二代目時の太鼓大巡行が40周を迎える  
・ILCサイエンスキャンプ、タイムカプセル埋設

# Training

1949年に設立された東京青年商工会議所。戦後の厳しい生活の中で「新しい日本の再建は我々青年の仕事である」という使命のもと、活動の火が灯った。商工会議所法の制定により「青年会議所」へ改名。51年に全国の会議所を総合的に調整する機関として、日本青年会議所が発足した。「明るい豊かな社会」の実現を目指した活動は、全国へと広がっていった。青年会議所の最大の特徴は、年齢制限。会員は20歳

〜40歳の若者に限られる。理事長などの役職の任期は1年間。同じ事業に留まらず、新たな役職や事業を経験することで、仲間との交流や情報交換、個人のスキルアップを図る。これは、青年の真摯な情熱を結集し、社会へ貢献することを目的に組織された団体こそこだわりたい。信条は「修練」「奉仕」「友情」。地域の発展などを目指して、まちづくり、青少年育成、社会教育や伝統行事の継承など、幅広い分野

の活動に力を注ぐ。現在、全国の青年会議所は697カ所。約3万6000人の若者が地域や社会のために奮闘している。

**変わりゆく時代 変わらぬ精神と志**

「一関青年会議所」は1955年、共に切磋琢磨しながら、よりよい地域を目指そうと発足。高い志と熱い情熱を持った21人の若者たちが、一つの団体として新たな一歩を踏み出した。

一関青年会議所は今年、60年の節目を迎えた。それぞれの時代と共に、地域が求めるまちの姿やまちづくりも変化してきた。時代のニーズを的確に判断し、事業を展開してきたことがその長い歴史を紡いでいる。事業や手段は異なっても、変わらなかつたものがある。それは、代々受け継いできた「遂げずばやまじ」の精神と高い志だ。若者たちの真摯な姿勢は、60年経った今もなお、地域の原動力になっている。

1\_今年実施した60周年記念事業をムービーで紹介 / 2\_第55〜59代理事長に感謝状を贈呈 / 3\_60年の節目を祝う現役メンバー / 4\_同会議所の齋藤賢第60代理事長 / 5\_祝辞を述べる勝部修市長 / 6\_高橋市郎兵衛OB会会長 / 7\_感謝状を贈呈された創設時のメンバーで、第8代理事長の神崎軍平さん / 8\_同じく、感謝状を贈呈された平沢一男さんも、創設時のメンバーの1人。創設当時の秘話を明かした



特集★一関青年会議所創立60周年記念

## 高き志は、時を超えて

1955年10月9日。熱い情熱と高い志を持った若者たちが集結し、一つの団体が生まれた。時代が流れ、仲間が変わっても、引き継がれてきた精神「遂げずばやまじ」。一関青年会議所は、いつの時代も地域の新たな可能性を切り開いてきた。明るい豊かな社会を実現する。時を超えて紡がれてきた志と60年の歩みを振り返る。

### 受け継がれてきた志が 紡いだ60年

1955年10月9日に設立された一関青年会議所(齋藤賢理事長)の「創立60周年記念式典」は10月17日、ベリーノホテル一関で行われ、総勢383人の会員が揃って参加した。60年の歩みを振り返った。

午後3時から行われた式典には同会員、市、市議会のほか、同会OB会のメンバーや関係機関など約200人が出席。あいさつで、齋藤理事長は「今年度は、スローガン『継承、次世代への礎たらん』のもと、駆けつけた1年だった。活動を支えてくれる市民、地域、会社、家族への感謝を忘れず、これからも邁進していきたい」と語り「今後も、一関や岩手の地域創生の一端を担っていく」と決意を新たに述べた。

祝辞で、勝部修市長は「創立以来の輝かしい実績が、市の枠組みを築いたと言っても過言ではない。地方創生は、行政の力だけでは成しえない。青年会議所

と共に、若者たちの笑顔があふれる地域を創ってきたい。これからの活動に大いに期待する」と60年の節目を祝った。高橋市郎兵衛OB会会長は「卒業生として、大きな節目を迎えらるることを誇りに思う。未来は『創る』もの。『遂げずばやまじ』の精神のもと、これからの一関を築いてほしい」と現役メンバーを激励した。

続いて、関係者への感謝状の贈呈が行われ、創設時のメンバーや第55〜59代理事長などを表彰。創設時のメンバーで、第8代理事長の神崎軍平さん(86)は、結成当時の秘話などを明かした。最後に、60周年記念事業の紹介ムービーを上映。会場は、ねぎらいと祝福の拍手で包まれた。

出席者は60年の歩みを振り返るとともに、一層の活躍を誓った。

**豊かな社会を目指して 動き出した若者たち**

青年会議所のルーツは、

